

生成AIを活用した授業実践事例



しょうじ ひろき

庄子 寛之

ベネッセ教育総合研究所 教育イノベーションセンター
主任研究員

元公立小学校指導教諭。大学院にて臨床心理学について学び、道徳教育や人を動かす心理を専門とする。「先生の先生」として、ベネッセの最新データを使いながら教育委員会や学校向けに研修を行ったり、保護者や一般向けに子育て講演を行ったりしている。研修・講演は500回以上。講師として直接指導した教育関係者は1万5000人に及ぶ。全国の学校が休校していた2020年のコロナ禍に、これからの教育について考えるオンラインイベントを企画し、世界中の教育関係者を2000名以上集め、話題を呼ぶ。

●著書

『自分で考えて学ぶ子に育つ声かけの正解』

(ダイヤモンド社) など多数



ベネッセ教育情報 みつかる、明日のまなび。

<https://benesse.jp/expert/10016.html>

生成AI活用を授業で使う場合の注意点

適切でないと考えられる例

- ・ 情報モラルや活用能力が育っていない段階で自由に使用
- ・ 読書感想文やコンクールなどで、生成AIによる生成物を、そのまま自己の作品として使用
- ・ 創作・表現・鑑賞など、感性や独創性を発揮させたい活動で最初から用いること
- ・ 教師が答えるべき場面で安易にAIに回答させること etc.

活用が考えられる例

- ・ 誤りを含む生成AIの回答を教材に、その性質や限界を生徒に気づかせる活動
- ・ グループの考えをまとめたり、アイデアを出したりする活動の際、足りない視点を見つけ、議論を深める目的で活用
- ・ 英会話の相手 / より自然な発音を習得するのに活用
- ・ 生成AIを用いた高度なプログラミング etc.

生成AIの 授業での 活用方法

○あくまで、ツール

- ・ 生成AIを使った授業ではなく、授業の中で生成AIを使う
- ・ 特に小学校では原則教師しか使用できないからこそ、教師が生成AIを使う時間をしぼる

○学級の中に新しい視点を与える「転入生」として使う

- ・ 同じ意見しか出ない雰囲気に変化が生まれる
- ・ 生成AIの考えが正しいということではないことを伝える

○ガイドラインを遵守し、日常生活での使い方の注意点を伝える

初等中等教育段階における 生成 AI の利活用に関するガイドライン

https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf

| 学年 | 教科等 | 単元等 |
|----|-----|----------------|
| 小4 | 国語 | 読む（物語文）「ごんぎつね」 |

| 活用アプリ |
|---------------------|
| オクリンクプラス 生成AIツール |

授業内容
今まで学んできたことを基に、物語について自分なりの想いをまとめる。

- 準備：
- ・共有コードを使用してカードを取得する。
 - ・授業を作成し、カード①をマイボードに送信する。
 - ・みんなのボードに、「伝えたかったこと」「学んだこと」のボードを用意する。
 - ・対話型の生成AIを使える状態にしておく（必要に応じて、「ごんぎつね」の本文を読ませておく）

- 授業の流れ：
1. これまで読んだ「ごんぎつね」のあらすじを振り返る。
 2. 「ごんぎつねはどんなことを伝えたかったのか」を個人で考え、カード①に入力する。
 3. みんなのボード「伝えたかったこと」に送り、友達と意見交換し、似ている考え、違う考えを整理する。
 4. 「ごんぎつねはどんなことを伝えたかったのか」を先生が**生成AI**にも聞いてみる。
 5. 「ごんぎつね」の物語に関して、**生成AIに聞いてみたいことを踏まえて意見交換する。この時、考えの違いを否定せず、多様な視点があることを大切にする。**
 6. カード②を配布し、AIの意見も聞いたうえで、ごんぎつねの話から学んだことを書き、みんなのボード「学んだこと」に送る。
 7. テキスト集計で、子供たちの学びを全体で共有する。

カード①

「ごんぎつね」はどんなことを伝えたかったのだろう？

クリックしてテキストを編集

カード②

「ごんぎつね」からどんなことを学びましたか？

クリックしてテキストを編集

生成AI（Gemini）の活用画面



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む



pb01JZMP89SXP8V5HCATJJAQ6E4H

GeminiはGoogle LLCの商標であり、本資料はGoogleによって承認または提携したものではありません。

活用する生成AIのプロンプト例（教師用例）

プロンプト例①（子供の質問を代弁）

小学校4年生の子供たちが「ごんぎつね」を読んでいます。
「ごんはなぜいたずらをしたのか」「ごんは最後に何を伝えたかったのか」を考えています。
子供たちの意見に加えて、AIとしての考えを小学生でも分かるように教えてください。優しく、短めの文でお願いします。

プロンプト例②（深める問いへの対応）

「ごんぎつね」の最後の場面を読んで、「もし、ごんが言葉で伝えられたら、何を言ったと思いますか？」
小学4年生に分かりやすいように教えてください。

AIとのやり取りポイント

子どもが、「なるほど！」と思える視点を与える役割。
人間の友達の意見と違っていても大丈夫、ということをあらかじめ説明する。
「意見は一つじゃない」ことを認め合う関係性を大事にする。